

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年10月17日

【四半期会計期間】 第31期第1四半期(自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日)

【会社名】 ファーマライズホールディングス株式会社

【英訳名】 Pharmarise Holdings Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役 執行役員 社長 岩崎 哲雄

【本店の所在の場所】 東京都中野区中央一丁目38番1号

【電話番号】 03-3362-7130 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 執行役員 秋山 昌之

【最寄りの連絡場所】 東京都中野区中央一丁目38番1号

【電話番号】 03-3362-7130 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 執行役員 秋山 昌之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第30期 第1四半期 連結累計期間 | 第31期 第1四半期 連結累計期間 | 第30期 |
|---|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日 | 自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日 | 自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日 |
| 売上高 (百万円) | 10,385 | 12,673 | 48,511 |
| 経常利益又は経常損失() (百万円) | 161 | 15 | 659 |
| 親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株 主に帰属する四半期純損失 () (百万円) | 16 | 101 | 382 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 10 | 132 | 365 |
| 純資産額 (百万円) | 5,146 | 5,978 | 6,237 |
| 総資産額 (百万円) | 24,604 | 24,657 | 25,667 |
| 1株当たり四半期(当期)純 利益金額又は四半期純損失金 額() (円) | 1.78 | 11.25 | 42.44 |
| 潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額 (円) | 1.76 | - | 41.55 |
| 自己資本比率 (%) | 20.6 | 21.1 | 21.1 |

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第31期第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成28年6月1日～平成28年8月31日）におけるわが国経済は、このところの景気の弱さもみられますが、雇用・所得環境の改善が続かなかで、緩やかな回復基調が続いています。一方で、アジア新興国や資源国等の景気下振れ懸念から、景気の見通しに対し慎重な見方が出てきております。

調剤薬局業界におきましては、周辺業種からの参入等により競争が激化していることに加え、「かかりつけ薬剤師・薬局」としての機能強化を基本とする厚生労働省の発表した「患者のための薬局ビジョン」に対する適応及び深刻化する薬剤師不足への対応等、一層の経営努力が求められる事業環境となっております。また、平成28年4月に調剤報酬改定、薬価改定が実施されたことも経営環境を厳しくする要因となっております。

こうしたなか、当社グループは引き続き新規出店及びM&Aによる事業基盤の拡大を図っております。また中期経営計画のテーマに沿い、セルフメディケーションに対するニーズや健康保険制度外事業の拡大を目的として、昨年10月1日にヒグチ産業株式会社及び株式会社ファミリーマートとの合併会社である薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社を立ち上げ、ドラッグストア事業へ本格的に参入しております。

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は12,673百万円（前年同期比22.0%増）、営業損失は29百万円、経常損失は15百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は101百万円となりました。

売上高につきましては、前連結会計年度以降に開局等をした店舗並びに前連結会計年度に新たに当社グループに加わった株式会社ドゥリーム、薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社、株式会社フォーユー及び有限会社ファコムが増収に寄与しました。

また利益面では、平成28年4月の調剤報酬改定と薬価改定の影響及び物販事業が引き続き採算改善の途上にあること、並びに新卒採用、研修等の本部費用の増加を主な要因として、営業利益は減益となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

なお、重要性基準に基づく報告セグメント見直しの結果、当第1四半期連結会計期間より、「医療モール経営事業」を新たな報告セグメントとして追加いたしました。

(調剤薬局事業)

当第1四半期連結累計期間における調剤薬局店舗は、2店舗増加、4店舗減少で、当第1四半期連結累計期間末時点において当グループが運営する店舗数は247店舗となりました。増加した2店舗の内訳は、北海道ファーマライズ株式会社の1店舗（北海道）、ファーマライズ株式会社の1店舗（埼玉県）であります。

薬局運営面につきましては、選ばれる「かかりつけ薬局」となるために、地域医療（在宅医療及び施設調剤）の実施、後発医薬品推進、患者情報の一元管理や重複投与・飲み合わせ・残薬確認強化の観点から電子お薬手帳「ポケットファーマシー」の利用促進、24時間対応に向けた取組み、を引き続き強化しております。また、中期経営計画の基本方針に沿い、一般用医薬品や健康食品等のセルフメディケーション関連商品の販売及び健康支援イベント等も実施するセルフメディケーション・サポート店舗の展開に対する取組みも、薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社の機能やノウハウを活用しつつ継続的に推進しております。

これらにより、当第1四半期連結累計期間における調剤薬局事業の業績は、売上高は10,195百万円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は60百万円（同77.7%減）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間におきましては、経営資源を集約し経営の効率化と事業基盤の一層の強化を図るため、平成28年6月1日付で、ファーマライズ株式会社が静岡県内で運営する11店舗、山梨県内で運営する1店舗及び愛知県内で運営する1店舗を吸収分割により株式会社みなみ薬局に承継し、同日付で、株式会社みなみ薬局が福島

県内で運営する3店舗及び山形県内で運営する1店舗を吸収分割によりファーマライズ株式会社に承継しております。

(物販事業)

物販事業の主な内容は、北海道ファーマライズ株式会社による化粧品等販売事業、ファーマライズプラス株式会社及び新世薬品株式会社によるコンビニエンスストアの運営事業並びに薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社によるドラッグストア等の運営事業であります。

本事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は2,070百万円(同1,165.8%増)、セグメント損失は67百万円となりました。当該損失は、コンビニエンスストア及びドラッグストアの運営事業が引き続き採算改善の途上にあることが主な要因であります。

なお、当第1四半期連結会計期間末における調剤を併設しない本セグメントの店舗数は2店舗増加、1店舗減少の61店舗となっております。

(医学資料保管・管理事業)

医学資料保管・管理事業は、調剤薬局事業の周辺業務として、株式会社寿データバンクが手掛ける紙カルテやレントゲンフィルム等の保管・管理事業であります。現時点における当該事業環境は、全国の病院において震災対応や業務効率化のための建替・移転が活発に行われていること等を背景として、医学資料の保管・管理需要は継続的に発生しておりますが、一方で保管年数の短縮化等、経費削減の動きが徐々に発生してきております。

このような環境下、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は190百万円(前年同期比0.1%増)、セグメント利益は33百万円(同36.4%増)となりました。今後とも新規需要の獲得に向け積極的な営業活動を展開してまいります。

(医療モール経営事業)

医療モール経営事業は、北海道ファーマライズ株式会社がJR札幌駅内の「JRタワーオフィスプラザさっぽろ」で運営している医療モールに係る事業です。

医療モール経営事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、堅調に推移しており、売上高は127百万円(前年同期比0.3%増)、セグメント利益は35百万円(前年同期比8.8%増)となりました。

(その他)

その他の事業の主な内容は、ファーマライズ株式会社の子会社である株式会社レイケアセンターによる人材派遣事業、新世薬品株式会社の子会社である有限会社エス・アンド・エスで行っている文具等の販売事業等であります。

その他の事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は88百万円(前年同期比11.7%増)、セグメント損失は2百万円となりました。

(2) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は1百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 31,398,000 |
| 計 | 31,398,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年8月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成28年10月17日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 9,006,380 | 9,039,050 | 東京証券取引所 (市場第一部) | 単元株式数は100株 であります。 |
| 計 | 9,006,380 | 9,039,050 | - | - |

(注) 平成28年9月2日に新株予約権の行使により32,670株発行されております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成28年6月1日～ 平成28年8月31日 | | 9,006,380 | | 1,166 | | 1,114 |

(注) 平成28年9月2日に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が32,670株、資本金及び資本準備金がそれぞれ7百万円増加し、発行済株式総数残高は9,039,050株、資本金残高が1,174百万円及び資本準備金残高が1,121百万円となっております。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年8月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 9,005,600 | 90,056 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 780 | | |
| 発行済株式総数 | 9,006,380 | | |
| 総株主の議決権 | | 90,056 | |

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年5月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。なお、当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、優成監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成28年 5 月31日) | 当第 1 四半期連結会計期間 (平成28年 8 月31日) |
|-------------------|---------------------------|----------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,343 | 3,039 |
| 売掛金 | 882 | 813 |
| 商品及び製品 | 1,900 | 2,366 |
| 未収入金 | 2,426 | 1,706 |
| その他 | 542 | 547 |
| 貸倒引当金 | 24 | 30 |
| 流動資産合計 | 9,071 | 8,442 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 3,588 | 3,580 |
| 土地 | 2,671 | 2,677 |
| その他（純額） | 655 | 620 |
| 有形固定資産合計 | 6,915 | 6,878 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 6,027 | 5,867 |
| その他 | 392 | 352 |
| 無形固定資産合計 | 6,419 | 6,220 |
| 投資その他の資産 | | |
| 差入保証金 | 1,773 | 1,641 |
| その他 | 1,714 | 1,643 |
| 貸倒引当金 | 242 | 181 |
| 投資その他の資産合計 | 3,244 | 3,103 |
| 固定資産合計 | 16,580 | 16,202 |
| 繰延資産 | 14 | 13 |
| 資産合計 | 25,667 | 24,657 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成28年5月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成28年8月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 5,855 | 5,752 |
| 短期借入金 | 2 | 361 |
| 1年内償還予定の社債 | 264 | 234 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3,084 | 2,707 |
| 未払法人税等 | 202 | 107 |
| 賞与引当金 | 104 | 198 |
| その他 | 1,222 | 1,006 |
| 流動負債合計 | 10,736 | 10,368 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 617 | 617 |
| 長期借入金 | 6,885 | 6,533 |
| 退職給付に係る負債 | 458 | 468 |
| その他 | 732 | 692 |
| 固定負債合計 | 8,693 | 8,311 |
| 負債合計 | 19,430 | 18,679 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,166 | 1,166 |
| 資本剰余金 | 1,152 | 1,152 |
| 利益剰余金 | 3,126 | 2,899 |
| 株主資本合計 | 5,445 | 5,218 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2 | 1 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 23 | 21 |
| その他の包括利益累計額合計 | 21 | 22 |
| 新株予約権 | 97 | 97 |
| 非支配株主持分 | 715 | 685 |
| 純資産合計 | 6,237 | 5,978 |
| 負債純資産合計 | 25,667 | 24,657 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

| | (単位：百万円) | |
|---------------------------------------|---|---|
| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日) |
| 売上高 | 10,385 | 12,673 |
| 売上原価 | 8,726 | 10,982 |
| 売上総利益 | 1,659 | 1,691 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,443 | 1,720 |
| 営業利益又は営業損失() | 215 | 29 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1 | 1 |
| 受取配当金 | 0 | 1 |
| 物品売却益 | 15 | 5 |
| 受取賃貸料 | 3 | 4 |
| 貸倒引当金戻入額 | - | 36 |
| その他 | 10 | 48 |
| 営業外収益合計 | 31 | 96 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 42 | 34 |
| 持分法による投資損失 | 20 | 27 |
| 支払手数料 | 1 | - |
| 休止固定資産費用 | 6 | 5 |
| その他 | 14 | 13 |
| 営業外費用合計 | 85 | 81 |
| 経常利益又は経常損失() | 161 | 15 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | - |
| 段階取得に係る差益 | 12 | - |
| 特別利益合計 | 12 | - |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 13 | 0 |
| 特別損失合計 | 13 | 0 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失() | 160 | 15 |
| 法人税等 | 149 | 112 |
| 四半期純利益又は四半期純損失() | 10 | 128 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失() | 5 | 27 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() | 16 | 101 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日) |
|-------------------|---|---|
| 四半期純利益又は四半期純損失() | 10 | 128 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1 | 6 |
| 退職給付に係る調整額 | 1 | 2 |
| その他の包括利益合計 | 0 | 4 |
| 四半期包括利益 | 10 | 132 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 16 | 102 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 5 | 29 |

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

| |
|--|
| 当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日) |
| (税金費用の計算) 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。 |

(追加情報)

| |
|---|
| 当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日) |
| 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日) |
|---------|---|---|
| 減価償却費 | 124百万円 | 151百万円 |
| のれんの償却額 | 149百万円 | 159百万円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日)

1 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成27年8月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 144 | 16 | 平成27年5月31日 | 平成27年8月26日 | 利益剰余金 |

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日)

1 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成28年8月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 126 | 14 | 平成28年5月31日 | 平成28年8月26日 | 利益剰余金 |

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年6月1日至平成27年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3 |
|-----------------------|------------|------|---------------------|-------------------|--------|-------------|--------|-------------|-----------------------------------|
| | 調剤薬局 事業 | 物販事業 | 医学資料 保管・ 管理事業 | 医療 モール 経営事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 9,824 | 163 | 190 | 127 | 10,306 | 79 | 10,385 | | 10,385 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | | | | | | | | | |
| 計 | 9,824 | 163 | 190 | 127 | 10,306 | 79 | 10,385 | | 10,385 |
| セグメント利益又は損失 () | 271 | 40 | 24 | 32 | 288 | 5 | 293 | 78 | 215 |

(注)1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、及び文具等の販売事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失()の調整額 78百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年6月1日至平成28年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3 |
|-----------------------|------------|-------|---------------------|-------------------|--------|-------------|--------|-------------|-----------------------------------|
| | 調剤薬局 事業 | 物販事業 | 医学資料 保管・ 管理事業 | 医療 モール 経営事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,195 | 2,070 | 190 | 127 | 12,584 | 88 | 12,673 | | 12,673 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | | | | | | | | | |
| 計 | 10,195 | 2,070 | 190 | 127 | 12,584 | 88 | 12,673 | | 12,673 |
| セグメント利益又は損失 () | 60 | 67 | 33 | 35 | 62 | 2 | 59 | 88 | 29 |

(注)1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、及び文具等の販売事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失()の調整額 88百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「物販事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

また、当第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「医療モール経営事業」についても量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第1四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第1四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日) |
|---|---|---|
| (1) 1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額() | 1.78円 | 11.25円 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ()(百万円) | 16 | 101 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | | |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損 失金額()(百万円) | 16 | 101 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 9,004,460 | 9,006,380 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 | 1.76円 | |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万 円) | | |
| 普通株式増加数(株) | 143,731 | |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかつ た潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要 | | |

(注) 当第1四半期連結累計期間については、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年10月17日

ファーマライズホールディングス株式会社
取締役会 御中

優成監査法人

| | | |
|----------------|-------|---------|
| 指定社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 本 間 洋 一 |
| 指定社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 宮 崎 哲 |
| 指定社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 陶 江 徹 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているファーマライズホールディングス株式会社の平成28年6月1日から平成29年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ファーマライズホールディングス株式会社及び連結子会社の平成28年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。